日本産科婦人科学会雜誌 ACTA OBST GYNAEC JPN Vol. 36, No. 12, pp. 2653—2656, 1984 (昭59, 12月)

診 療

# 先天性腹水症の2例

熊本大学医学部産科婦人科学教室

宮村 伸一 松井 和夫 伊藤 昌春 吉村 寿博中村 敏光 藤崎 俊一 前山 昌男

Key word: Congenital ascites

## 緒言

産婦人科領域においても,超音波検査は,診療上,重要な位置を占めるようになつてきたが,特に,種々の胎児異常の出生前診断には,欠くことのできない検査となつている。今回,我々は,両例共に,出生前診断が可能であり,一例は生存例で,他例は水頭症を合併し,死産となつた二例の先天性腹水症を経験したので報告する。

## 症 例

症例1. K.O., 25歳, 0-0-1-0, 主婦.

家族歴:既往歴:特記事項なし。

月経歴:初潮14歳, 周期28日型, 整順, 経時障害なし.

妊娠経過:最終月経昭和57年1月11日より6日 間で妊娠成立した. 妊娠初期での感染, 薬物の服 用,放射線の被爆等の既往はない.妊娠33週より 軽度の蛋白尿,下腿浮腫を認め,妊娠35週で子宮 底長の急激な増加,胎児心拍の増加,また,同時 に超音波検査で胎児腹水がみられた為, 当科紹介 入院となつた。身長149cm, 体重55.5kg で尿蛋白 (一), 尿糖(一), 間接クームステスト陰性, 血液 生化学検査に異常なく, その他ウィルス感染, 細 菌感染を示す検査結果はなかつた. 入院時, 妊娠 36週1日の腹部所見は、子宮底長39cm、腹囲87.5 cm で第一頭位, 児心音は毎分160拍前後で, 児心 拍モニターは、valiability 良好であつた。超音波 検査では、写真1の如く、腹部横径115mm Echofree space が著明で、多量の腹水を認め、腸管は 一塊となつている。写真2は縦断像で腹水と共に 陰囊水腫を認める. 皮下組織の浮腫はなく, 胸部, 頭部には異常所見はなかつた. 入院後, 直ちに自 然破水し、分娩となつた、軽度の羊水過多があり、

児頭娩出後,肩甲部以下の娩出に時間を要し,クリステレル圧出法にて娩出した(写真 3). 児は,体重3,270g,身長45.5cm の男児で,腹水,陰囊水腫以外外表奇形を認めなかつた. 出生後,直ちに蘇生術開始するも,1分後,アプガースコア 1点. 挿管し人工呼吸施行,腹水による呼吸障害と判断し,腹水368ml 吸引す. 腹水は,黄色透明で混濁はなかつた. この処置により,5分後アプガースコア 9点となつた. 胎盤は870gで,肉眼的には軽度の水腫状変化を認めたが,組織学的には著変はなかつた. また,脐帯血中の直接クームスは陰性,総ビリルビン値は1.7mg/dl 直接ビリルビン1.0mg/dlであつた. その後,小児科へ転科となり,

写真1

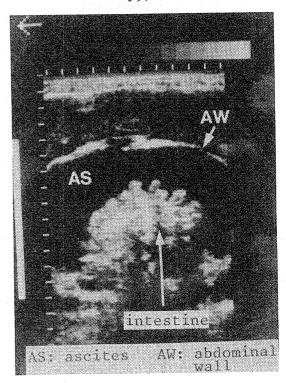
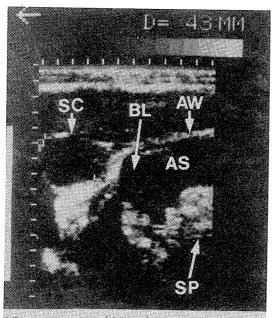


写真2



SC: scrotum(43mm) BL: bladder

AS: ascite SP: spine

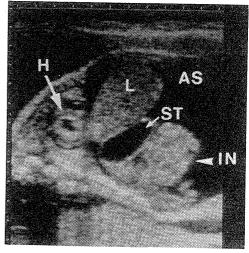
AW: abdominal wall

写真3



MCT ミルク投与により、腹水の再貯留はみられれなかつた。しかし、強度の低蛋白血症があり、また、黄疸著明でアルブミン輸液、光線療法を施行するも改善せず、この為、先天性胆道閉鎖症を疑い開腹術を行なつた。総胆管閉塞症であり、Vater 乳頭部開口術を施行した。術後経過は順調で、昭和58年3月、熊本大学附属病院小児科を退

写真 4

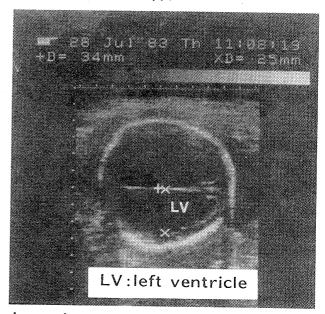


Fetal longitudinal scan H:heart L:liver

H:heart L:liver AS:ascites ST:stomack

IN:intestine

写真5



lateral ventricular width cerebral hemispheric width (normal range 0.30 - 0.43

院し、現在1歳となるが健在で、発育はやや遅延 しているものの、運動障害、知能障害はない。

症例2. R.Y., 33歳, 1-1-3-1, 主婦。

家族歴:祖母に喘息

既往歷:18歲, 虫垂切除術。

宮村他

1984年12月

月経歴:初潮16才,周期45日型,期間4日間, 整順、経時障害なし。

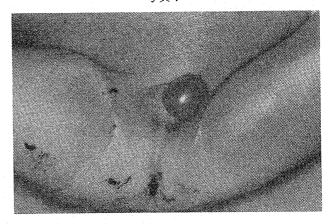
妊娠, 分娩歴:

- 1. 昭和47年 22歳 妊娠2ヵ月 人工妊娠中 絶
- 2. 〃 48年 23歳 〃 3カ月 自然流産
- 3. // 49年 24歳 // 3カ月 子宮外妊娠
- 4. // 51年 26歳 // 10カ月 正常分娩女
- 5. *"* 52年 27歳 *"* 8カ月 前置胎盤に て帝王切開術男850g死亡

妊娠経過:最終月経昭和58年1月13日より4日 間で妊娠成立した。妊娠初期での感染,薬物の服 用,放射線の被爆等の既往はなく,順調に経過し た、妊娠26週での超音波検査により、胎児腹水を 指摘され当科紹介,妊娠27週6日で入院となつた。 身長156cm, 体重61.4kgで, 妊娠中毒症の所見は ない、検査所見では、間接クームステスト陰性、 軽度の貧血, 低蛋白血症を認めるものの, その他 異常なくウィルス感染、細菌感染を示す結果はな かつた。腹部所見は,子宮底長32cm,腹囲94cm で 第1頭位, 児心音は毎分144拍前後で, 児心拍モニ ターでは dip はないが、valiability の減少が認め られた。超音波検査で、写真4の如く、著明な腹 水を認め、膀胱像も不明であつた。しかし、皮下 組織、胸部には異常所見はみられなかつた。頭部 では(写真5)大横径8.5cmで、脳室の拡大著明 で、正常の約2倍を示し、脳実質の非薄化が明ら かであつた。胎児造影では、顔面、四肢の外表奇 形はなく、消化管の通過性はみられたが、腹部膨 満が著明で,外性器は性別判定不能であつた.先 天性腹水症、水頭症の診断にて、その後、超音波 検査を繰り返し施行し、脳室が79.5%と増大し、 腹水も増大傾向を認めた為、体外生活不能と判断 し、妊娠29週5日で分娩誘導を行なつた。ラミナ リア挿入、プロスタグランディン、アトニンによ る点滴誘導にて1,720gの男児を死産した(写真 6). 大横径9.1cm, 頭周囲28.5cm で在胎週数に 比し、頭囲の増大があり、また腹部は著明に膨隆 し、表在血管の怒張がみられた。外性器(写真7) は,水腫状で外尿道口はなく,形態的に性別判定 不能で染色体検査により46XYの男性型核型を示 写真 6



写真7



した。胎盤は520gで肉眼的に水腫状変化は軽度で 組織学的には、syncytium node がみられた。

#### 老 案

先天性腹水症は、胎児水腫症の前駆症状あるいは1つの症状として考えられているが、その予後は大奇形をよく合併するので不良といわれているが、その原因については、血液型不適合を含めて溶血性疾患、泌尿器系の異常、腹膜炎、門脈リンパ管の閉塞、先天性心疾患等があげられる。Fordyce³は、46例の胎児腹水症のうち、泌尿器系の異常が17例と最多を示し、その他腹膜炎、腸管の異常を挙げている。また Lord⁴も、30例のうち、20例が泌尿器系の異常が原因であつたと報告している。最近では、超音波検査が普及し、分娩前に

胎児診断が可能となり、本疾患の報告がいくつか みられる<sup>1)2)5)</sup>.

今回、我々が経験した症例1は、生後1年以上 の生存例であり、健在である。この腹水の原因と しては、手術により Vater 乳頭部の狭窄を認めて おり、これに起因するものと思われる。 さらに、 脐帯血中の低アルブミン血症, LAP の上昇, 直接 ビリルビン優位の総ビリルビンの上昇があり, こ の原因を裏づける検査結果であろう。 また胎児頻 拍症については, 出生後の検査等により, 腹腔内 圧上昇に起因する代償性の頻拍症と思われる. 症 例2は、剖検を施行できなかつた為、確定診断は できかねるものの, 外性器の異常を認め, 外尿道 口がみられず、超音波検査にても膀胱像が不明な ことから, 泌尿器系の異常による先天性腹水症と 思われる.水頭症との関連については報告がなく, 独立した合併症なのか否かについては不明であ る. なお, この2症例ともに, 母体の間接クーム ス陰性、脐帯血中直接クームス陰性であり、免疫 学的な水腫症ではないものと思われる。

以上,先天性腹水症の2例を報告したが,超音波検査の普及により,胎児奇形の出生前診断が可能となり,予後判定にも,また分娩時異常に対処しうる体制を,前もつて整えることができるものと思う.

#### 文 献

- 赤松信雄,河相淳一郎,藤田卓男,小幡明儀,福本 悟,丹羽国泰,本郷基弘,関場 香:胎児腹水の超音波断層法診断,産婦治療,6:729,1981.
- 2. 坂口幸吉, 小池健太郎, 沼本篤男, 山田紳介, 岡 崎裕行, 浜家一雄: 分娩障害をきたした胎児腹水 症例の2例について. 産と婦, 9:119, 1983.
- 3. Fordyce, W.: Teratologia. 61 and 143. London, 1894.
- 4. Lord, J.M.: Foetal ascites. Arch. Dis. Child., 28: 398, 1953.
- 5. Mueller-Heubach, E. and Mazer, J.: Sonographically documented disappearance of fetal ascites. Obstet. Gynecol., 61: 253, 1983.
- Spahr, R.G., Botti, J.J., MacDonald, H.M. and Holzman, I.R.: Nonimmunologic hydrops fetalis: A review of 19 cases. Int. J. Gynaecol. Obstet., 18: 303, 1980.

(No. 5438 昭59·1·26受付)